

平成 22 年度特別支援教育研究センター事業報告

1. 研究開発機能

1) 特別支援教育に関わる現職教育のカリキュラム開発

- ・現職教員研修のニーズ調査（海外を含む）

2) 附属特別支援学校間の連携研究

- ・「発達障害や重複障害がある幼児のアセスメントと支援方法，園へのコンサルテーションの在り方に関する研究(2)－座位の保持や移動に困難を抱える知的障害児の事例を通して－」
（附属大塚特別支援学校，附属桐が丘特別支援学校）
- ・「「見えにくさ」のある肢体不自由児に対する社会科指導」
（附属桐が丘特別支援学校，附属視覚特別支援学校）
- ・「小中学校の「特別支援教室」に求められる役割と機能について～その(1) 附属学校の教材教具の集約と，それを整備したリソースルームの試み～」
（附属大塚特別支援学校，附属視覚特別支援学校）

3) 国際教育協力事業への協力

- ・JICA 本部「インクルーシブ教育を促進するためのターゲットグループを通じた教師養成－多様性の中で学ぼう」プロジェクト
- ・JICA 筑波「南米地域特別支援教育」プロジェクト

4) 外部資金導入研究

- ・文部科学省「平成 22 年度特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業（特別支援学校教員の専門性向上）」

①免許法認定講習（第 2 欄）の開催および運営

「肢体不自由の指導法」「視覚障害の指導法」「聴覚障害の指導法」

総受講者数 71 名

8 月 19 日～ 22 日，8 月 23 日～ 26 日，8 月 25 日～ 28 日

附属桐が丘特別支援学校，附属視覚特別支援学校，附属聴覚特別支援学校

5) 後援研修事業

- ・「特別な支援を必要とする子どもの理解と保育－実技と演習－」
7 月 30 日，31 日（附属大塚特別支援学校）

6) アセスメント開発研究

- ・初期社会性のアセスメント方法開発
（科学研究費補助金基盤研究(B)「自閉症児に対する初期社会性発達アセスメントと支援プログラムの開発に関する研究」(平成 21 年度～平成 24 年度 課題番号：21330209 研究代表者：長崎勤)による附属大塚特別支援学校教員，都立特別支援学校教員との共同研究)

2. 教員研修機能

1) 現職教員研修事業の運営

- ・現職教員研修生 7 名（埼玉県 1 名・千葉県 2 名・静岡県 1 名・長野県 1 名・秋田県 2 名の各教育委員会からの推薦・派遣）の受け入れ

2) 免許法認定公開講座の運営（第 1 欄及び第 3 欄）

「特別支援教育の基礎理論」 受講者数 68 名

「障害児の心理・生理・病理・教育課程・指導法論」 受講者数 88 名

7月26日～31日 東京キャンパス神保町地区

3. 理解啓発・交流機能

1) センター主催セミナーの開催

・第12回 シリーズ：特別支援教育の展開(1)

(後援：国立大学法人障害児教育関連センター連絡協議会)

11月27日 附属視覚特別支援学校体育館 参加者40名

テーマ「特別支援教育の課程を卒業した青年の現状と課題」

講演 仙台市発達相談支援センターアーチル主査 齋藤まり子氏

・第13回 シリーズ：特別支援教育の展開(2)

3月28日附属中学校育鳳会館（震災のため中止）

2) 研究交流セミナーの開催（障害科学系との共催）

1月7日 附属小学校講堂 参加者103名

テーマ「これからの特別支援教育がめざすもの」

講演 東日本国際大学 中村満紀男氏

講演 文部科学省特別支援教育課長 千原 由幸氏

3) 「筑波大学特別支援教育研究」第5巻の発刊（3月）

4) ニュースレター「SNERC 通信」の発行 年間4回

【お詫び】

平成 23 年 3 月に発行しました「筑波大学特別支援教育研究第 5 巻」に掲載しました実践報告「連携研究：発達障害や障害を併せ有する幼児のアセスメントと支援方法，園への支援の在り方に関する研究～その(1) 子育てひろばの参加者への支援事例を通して～」(pp. 44-49) の表 3 が抜けていました。

関係された先生方およびご購入いただいた方々にお詫びいたします。

また、表 3 を加えた抜刷を御希望される方は、当センターまで御連絡ください。

p. 49 に挿入

表 3 コンサルテーションレポート

| | |
|--------|---|
| 日時（場所） | 200X + 3 年 1 月 27 日（水） 場所（時間）：附属大塚幼稚部 10：30～12：00 |
| 分 類 | 連携研究 いすのフィッティングと参加方法の提示 |
| ケース氏名 | A 君（3 歳） |
| 出席者 | 大塚幼稚部：〇〇，〇〇 桐が丘：〇〇，〇〇 保護者（母，祖母） |
| 内 容 | <p><幼稚部日課への参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・座位保持いすに座ることで，体幹が起こしやすくなるようだ。介助もやりやすくなったと感じる（前回，母からも同様の感想） ・〇〇ちゃんと〇〇君の間に座る。〇〇ちゃんをよく意識していた。声を聞いて視線を向けることが数回あった。 ・歌やあいさつなど前方で活動が始まると，動きが止まることが何回かあった。 ・活動の合間は，伸び上がったり，体幹を前後に揺らしたりするなどが見られたが，次の活動が始まったことがわかると静かになり動きを止める，チラッと見るなどして意識を向けていた。 ・カードは，指先でなでるようにして，持とうとする様子はなかった。座位保持いすに座ったままで水平に移動し，黒板に貼ったカードの上から手でとんとんとたかせると顔を正面に向けていた。歌カードの時も同様の反応。目の前にあるものに視線を向けている。 ・お馬はみんな♪，だっこで室内を回ると声を出して笑っている。終わるとすぐに表情が戻っており，やりたいをアピールしたり，やりたいのにムツとするなどの表情の変化はみられなかった。 ・タンバリンを目の前に出すと左手を出し，タンバリンの上にのせていた。 ・鈴，マラカスは，右手に握らせるとしっかり握って鈴を口に入れていた。 ・マラカスを振っていた〇〇ちゃんに左手を伸ばすことがあった（ビデオ記録）。 ・座位保持の背もたれを使って立たせてみると，足の裏をついていられる。若干体を後傾させ。腰を押すようにすると少し体を伸ばした形でいられる。立とうとする，体を支えるような足の力はあまり感じなかった。 ・いすの背もたれをなめようとするので，いすを少し前に出す。2 回ほど右足を前に出すような動きを感じたが，その後は足を出す感じは見られなくなった。 ・外遊び，滑り台，ブランコどちらも喜び，満面の笑顔になる。（母：ブランコは少し前までは，嫌がっていたが，最近になってとてもすきになってきた） ・男の先生をととてもよく見て，目で追っていた。 <p><保護者より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・転居を考えている。 ・〇〇センター福祉科より，〇〇区に居住する場合，〇〇区発達センターのフォロー対象になるとの連絡があった。 <p><同日 12：30 〇〇療育センター OT 〇〇先生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いすに座った画像の確認。大きさとしてはよさそう。ベルトの位置も大丈夫だと思う。 ・〇区には地域の発達センターがあるので，基本的には地元でケアを受けることは勧められる。かならずそこでケアを受けなければならないということではない。 |
| 備 考 | 活動ごとにいくつかの動画あり |

「筑波大学特別支援教育研究」編集規定

- 第1条 筑波大学特別支援教育研究センター（以下「センター」という。）は、研究誌を発行し、筑波大学特別支援教育研究（以下「研究誌」という。）と称する。
- 第2条 研究誌は、原則として年1回発行する。
- 第3条 研究誌には、学術論文、実践報告、センター報告（セミナー報告、センター事業報告、現職研修報告、特集等）を掲載する。学術論文は特別支援教育に関する未公刊の研究論文とし、別に定める研究誌執筆要綱に従って執筆する。
- 第4条 前条の論文等の筆頭執筆者は、センターに籍を有する教員、附属学校教員、研修生・修了生および障害科学系と附属学校教育局教員、ならびに、その研究がセンターの事業に関与したと編集委員会（第5条参照）が認めた者とする。
- 第5条 研究誌の審査・編集のため、編集委員会（以下「委員会」という。）をおく。
- (2) 委員会には委員長を置き、センター長をもってあてる。
 - (3) 委員長はセンター運営委員のうちから若干名の委員を指名し委員会を組織する。
- 第6条 編集事務を担当するために、編集幹事（若干名）を置く。
- (2) 編集幹事は、センター教員のうちから委員長が指名する。
- 第7条 研究誌に掲載を希望する者は、論文等を委員会に送付するものとする。
- (2) 投稿された論文等の採否は、委員会の合議によるものとする。
 - (3) 委員会は、投稿された学術論文の審査について、編集委員以外の者にも査読を依頼する。
- 第8条 研究誌に掲載されたものは無断で複製あるいは転載することを禁じ、著作権はセンターに帰属するものとする。

附則：この規定は、平成18年2月1日から施行する。

附則：この規定は、平成20年3月1日から施行する。

附則：この規定は、平成22年4月1日から施行する。

平成 22 年度 特別支援教育研究センター運営委員会委員名簿

| 氏 名 | 職 名 | 適 用 条 項 |
|-----------|-----------------|-----------------|
| 河 内 清 彦 | 特別支援教育研究センター長 | 第 5 条第 2 項第 1 号 |
| 石 隈 利 紀 | 附属学校教育局次長 | 第 5 条第 2 項第 2 号 |
| 安 藤 隆 男 | 教 授 | 第 5 条第 2 項第 3 号 |
| 長 崎 勤 | 教 授 | 〃 |
| 藤 原 義 博 | 教 授 | 〃 |
| 左 藤 敦 子 | 助 教 | 〃 |
| 間々田 和 彦 | 教 諭 | 〃 |
| 日 高 雄 之 | 教 諭 | 〃 |
| 野 村 勝 彦 | 教 諭 | 〃 |
| 城 戸 宏 則 | 教 諭 | 〃 |
| 日 山 美 子 | 教 諭 | 〃 |
| 引 田 秋 生 | 附属視覚特別支援学校長 | 第 5 条第 2 項第 4 号 |
| 宮 本 信 也 | 附属聴覚特別支援学校長 | 〃 |
| (藤 原 義 博) | 附属大塚特別支援学校長 | 〃 |
| (安 藤 隆 男) | 附属桐が丘特別支援学校長 | 〃 |
| 宍 戸 和 成 | 附属久里浜特別支援学校長 | 〃 |
| 今 井 二 郎 | 附属聴覚特別支援学校副校長 | 第 5 条第 2 項第 5 号 |
| 神 田 基 史 | 附属大塚特別支援学校副校長 | 〃 |
| 四日市 章 | 障害科学系長 | 第 5 条第 2 項第 6 号 |
| 佐 藤 眞理子 | 教育開発国際協力研究センター長 | 〃 |
| 星 祐 子 | 附属視覚特別支援学校副校長 | 〃 |
| 吉 沢 祥 子 | 附属桐が丘特別支援学校副校長 | 〃 |
| 松 本 末 男 | 附属久里浜特別支援学校副校長 | 〃 |

平成 22 年度 特別支援教育研究センター 5 部門会議構成員

| | |
|-------------|---------------------|
| 附属視覚特別支援学校 | 丹治 達義, 宮崎 善郎, 江村 圭巳 |
| 附属聴覚特別支援学校 | 両角五十夫, 佐藤 幸子 |
| 附属大塚特別支援学校 | 安部 博志, 比嘉 展寿, 高橋 幸子 |
| 附属桐が丘特別支援学校 | 田丸 秋穂, 杉林 寛仁, 松本美穂子 |
| 附属久里浜特別支援学校 | 瀬戸口裕二, 安田まゆの |

* 5 部門会議メンバーにはセンタースタッフが含まれる。

平成 22 年度
特別支援教育研究センタースタッフ

センター長 河 内 清 彦
 教授 藤 原 義 博
 教授 安 藤 隆 男
 教授 長 崎 勤
 助教 左 藤 敦 子
 教諭 間々田 和 彦
 教諭 日 高 雄 之
 教諭 野 村 勝 彦
 教諭 城 戸 宏 則
 教諭 日 山 美 子

平成 23 年度
特別支援教育研究センタースタッフ

センター長 安 藤 隆 男
 教授 藤 原 義 博
 教授 長 崎 勤
 助教 左 藤 敦 子
 教諭 間々田 和 彦
 教諭 日 高 雄 之
 教諭 野 村 勝 彦
 教諭 佐 藤 孝 二
 教諭 沼 澤 聡 子